

令和3年度 自己評価計画書(中間報告)

石川県立ろう学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	分析及び今後の課題
1 授業実践力の向上	①各教科等の見方・考え方を働かせ、教科間の連携を通して、必要とされる資質・能力の育成を図る。	○教務課 幼小中高等部	学級担任や各教科担任が個々で担当した幼児児童生徒について個に応じた指導を行っている。教員同士の関わりをさらに強め、各教科等を関連させた指導を行ってきたい。	【努力指標】 各教科等の関連を意識して指導に取り組んでいる。	各教科等を関連させた指導を意識して学習活動を行っている教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教員100% A評価	他教科や前担当者と連携し、縦・横断的な視点をもって授業を行っていると回答した教員が多く見られた。今後は個々の教員や学部内の連携だけでなく、学部を越えた縦のつながりにも広げていきたい。
	②「一人一研究授業」を行い、聴覚障害教育の専門性や授業力の向上を図る。	○研修課 幼小中高等部 寄宿舎	昨年度、聴覚障害教育における専門性の観点を意識した一人一研究授業を行った。その観点を共有し、高めていく必要がある。	【成果指標】 観点メモに沿って研究授業や普段の授業を参観し、メモを元しながら意見を交換し合い、授業改善に取り組んでいる。	期間内に、授業参観や意見交換をした回数 A 3回以上 B 2回 C 1回 D なし	教職員94% A評価	他学部の授業を参観することで、担当幼児児童生徒に対して、これまで何を学んできたか、これから何を学んでいけばよいかを考える機会となっている。継続して取り組みたい。
2 安心・安全な学校づくり	③保護者と連携し、幼児児童生徒が情報機器やインターネット等を安全に利用できるよう、指導支援の工夫を行う。	○指導課 幼小中高等部 寄宿舎	本校中高等部生徒の携帯電話所有率は100%である。幼児児童も保護者の携帯電話を利用する機会はある。使用に際してインターネット上の諸問題を未然に防ぎ、安全に利用できるよう、リテラシーやモラルについての指導が必要である。また、学校での指導内容を保護者と共有することが大切である。	【努力指標】 情報機器やインターネットの正しい使用について、個に応じた指導を行う。	個に応じた内容を工夫して指導できた教職員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員66% C評価	児童生徒の情報機器に触れる機会や理解度によって、指導の内容や方法が工夫される必要があるが個々の教員に任せられている実態がある。日常生活に即した安全な使い方の指導が必要であることを今一度確認し、計画的に実施していきたい。
				【努力指標】 情報機器やインターネットを使用する際の危険性を知り、正しい使い方を理解する。	危険性や正しい使用方法を理解していると答えた児童生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童生徒100% A評価	保護者や教員と確認したことやルールを守って情報機器やインターネットを使用している様子が見えた。引き続き、インターネットやゲームの使用について、ルールや利用時間等を確認して使用していくことを促していきたい。使い方等でわからないことがあれば、気軽に相談できる環境を作っていきたい。
				【満足度指標】 情報機器やインターネットの安全な使用について学校が行っている指導内容を保護者は知っている。	安全な使用について学校がどんな内容を指導しているか知っている保護者が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	保護者77% B評価	情報機器やインターネットの安全な使用について学校で指導していることが概ね伝わっているが、具体的な指導内容が伝わっていない場合もあることがわかった。今後はさらに学校、家庭が連携して安全な使用について共通理解し、指導していくことが大切である。共通理解するために、取組をHPや通信などで周知していきたい。
3 キャリア教育の推進	④本校キャリア教育全体計画を個別の教育支援計画に関連付け、個のニーズに対応した指導に生かす。	○進路指導課 幼小中高等部	一人一人のキャリア発達のために、本校キャリア教育全体計画を個別の教育支援計画に関連付け、キャリア教育の視点に基づいた指導を行う必要がある。	【成果指標】 授業や様々な活動においてキャリア教育の視点をもって指導する。	学習活動の中でキャリア教育の視点に基づいた指導ができた教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員91% A評価	キャリア教育全体計画を個別の教育支援計画に反映させ、懇談で保護者に説明を行っているという教員が多かった。一方でキャリア教育の視点を持ってなかったなどの回答をした教員も見られた。研修等を通してキャリア教育についてさらに理解を深める必要がある。
				【満足度指標】 本校キャリア教育全体計画と個別の教育支援計画との関連からキャリア教育における個別の目標や取り組みについて保護者が理解できるようにする必要がある。	キャリア教育の視点についての説明を聞き、それに基づいた学習活動が行われていることを理解できた保護者が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	幼稚部100% A評価 小・中・高等部77% B評価	幼稚部では、保護者へ普段の教育活動の意義についてキャリアの視点からわかりやすく説明されたことが成果につながっている。小・中・高等部に関しては、懇談未了が数件あったものの、教員が自身の勉強不足であるとの回答もあり、キャリア教育の研修の実施を考え理解を深めていきたい。
4 新しい生活様式における業務改善	⑤コロナ禍で必須となるリモート会議を効率的かつスムーズに行えるように業務改善する。	○総務 幼小中高等部 寄宿舎	感染対策のためリモート会議が増えたが、職員のスキルが十分でないため、さらなる職員のスキルアップが必要である。	【努力指標】 リモート会議に向けた準備や参加及びリモート会議への参加や開催を自分で行えるようスキルアップを図り、計画的に準備し実行する。	リモート会議に向けた準備や参加及び開催を自分で行った回答の項目が A 4項目以上(80%以上) B 3項目以上(70%以上) C 2項目以上(60%以上) D 1項目未満(60%未満)	教職員66% C評価	wi-fi整備や職員のタブレット端末配付により端末を活用する環境が整い始めた。配付が十分でないことやリモート会議実施においてはまだフォローが必要な状況である。研修や経験を重ね職員個々のスキルアップを目指したい。